設立総会が開かれました

２００９年３月２１日(土)午後１時３０分より鈴鹿市白子公民館で「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」総会が開かれました。総勢６３名の参加がありましたが、内訳は、それまでに会員の申し込みをしていただいた方２６名、この日新しく会員になられた方２９名、その他の方８名でした。これで会員数はこれまでの５４名に加え８３名となりました。参加された方の中には第一期飛行科予備生徒として多くの同期生を特攻隊員として亡くしたという方、自衛隊員の親の会の方、国会・市議会関係者、主婦、教職員など色々な層の方々が参加がありました。

「戦争遺跡は鈴鹿市民の原点」という発起人代表のあいさつのあと、会則、役員、２００９年度の事業計画・予算などの議案を拍手による賛成多数で決めました。第２部では、岩脇彰さんが「鈴鹿市の戦争遺跡保存と課題」と題して基調報告をしていただき、続く自由討論で、多くの参加者から活発な意見、提案が出されました。

会場内には、辻泰さん所蔵の戦闘機のタイヤやパラシュートをはじめ鈴鹿海軍航空隊の行事や訓練の様子の写真、その他会員所蔵の戦争時の新聞や航空隊関係品などが多数展示され、参加者の興味を引いていました。

設立総会次第

１．開会
２．発起人代表あいさつ（設立主旨発表）
３．議長の選出
４．議題
　（１）会則について
　（２）役員選出並びにあいさつ
　（３）２００９年度事業計画並びに予算
５．閉会
〈第２部〉　意見交換会
　「鈴鹿市の戦争遺跡保存と課題」
（１）基調提案（岩脇彰さん）
（２）自由討論
（３）その他連絡

展示品を見る参加者の皆さん

戦闘機のタイヤを説明する辻さん

設立総会開会のあいさつ(設立主旨)

発起人代表　竹内宏行

会場の都合から、三連休の真ん中という日に設立総会を開くことになりましたのに、このように多くの方にお集まりいただき、ありがとうございます。

どうしてこういう会をつくることになったか、いきさつから申し上げます。鈴鹿市考古博物館が昨年度(平成１９年度)催した６回にわたる歴史講座の最終回で、戦争遺跡の調査、研究に取り組んでこられた亀山西小学校の岩脇彰先生が「三重県内の戦争遺跡」という話をされました。講義を聴かれた加藤二三子さんは鈴鹿市民としてこの戦争遺跡をきちんと後世に伝えていく必要があると強く感じられたようで、「いっしょに戦争遺跡を守っていきませんか」と知人に声をかけられました。呼びかけに応じた私を含む１０人近い人たちが４月から月１回くらいのペースで会合をもち、どう取り組んでいこうかなどを話し合い、今日の発足にこぎつけたわけです。

私は鈴鹿市民になってちょうど１０年になります。３年前まで新聞記者をしておりまして、最後の赴任地が鈴鹿だったのです。６年間、市民生活のいろんな局面、さまざまなできごとを記事にさせてもらってきました。その取材の過程で、多くの人たちと出会い、すてきな友人がたくさんできたことから、鈴鹿に骨を埋めことにしました。

鈴鹿市の戦争遺跡については２００１年夏に一度記事にしたことがありますが、正直いって加藤さんに誘われるまでは、戦争遺跡について深い関心や認識があったわけではありません。この１年近く、少しずつ勉強していくうちに、この戦争遺跡は鈴鹿市民の原点ではないかと考えるようになりました。悲惨な戦争を２度と繰り返さないための生き証人として、そして戦後の発展の礎として、いまも残る戦争遺跡を保存し、後世に伝えていくことは、鈴鹿市民の存在証明みたいなものではないかと思っています。

第２部で岩脇先生からくわしい話があると思いますが、いまなお残されている最大の戦争遺跡は戦後ＮＴＴの研修施設となった鈴鹿海軍航空隊の３棟の格納庫です。このような形で残っているのは、全国的にも例がないそうです。それを単にそのまま残せ、というつもりはありません。未来につながる形で、鈴鹿の活性化につながる形で残せたらと思うのです。

鈴鹿市は１９８５年（昭和６０年）に非核平和都市宣言をしました。そして２００４年（平成１６年）にはモータースポーツ都市宣言をしています。鈴鹿商工会議所はモータースポーツ都市宣言を受けて、今年度(平成２０年度)の事業計画の中で、重点事業として「モータースポーツ都市宣言のまちにふさわしいミュージアム並びに観光事業の調査研究」を打ち出しました。幹部の方々と意見交換させてもらうその中で、非核平和都市宣言のまちとモータースポーツ都市宣言のまちをドッキングさせたミュージアムができたらという話になり、幹部の方々は「それは面白い。深みのあるミュージアムになる」という趣旨の感想を語っておられました。

格納庫を生かして、２つの都市宣言を結ぶ姿を見せる。軍都としての鈴鹿市の誕生を振り返るとともに、車産業を軸とした戦後の発展がわかるミュージアムにする。そこで市民、子どもたちが鈴鹿市の誕生と発展を学びながら、平和の尊さをかみしめる。さらには鈴鹿市の観光にも役立つ。そんな施設として格納庫を生かせないか。私見としての一つの夢ですが、これからみなさん方とともに、みなさん方のお知恵を拝借しながら取り組んでいくことができればと考えています。

設立総会で挨拶する竹内代表

基調提案　「鈴鹿市の戦争遺跡保存と課題」

岩脇　彰

１．鈴鹿市と戦争遺跡

三重県では現在、約１６０の戦争遺跡を確認していますが、鈴鹿市は規模の大きな戦争遺跡がたくさん残っていることが特長的です。現在の市内に４つも飛行場（海軍２、陸軍２）があったのは珍しいですし、他にも大規模な軍事施設が造られています。これらの軍用地には戦後、工場などが進出して鈴鹿市発展の礎になりましたが、戦争の事実を知り平和を学ぶための戦争遺跡もたくさん残っています。

戦争遺跡に対する鈴鹿市の取り組みもすばらしいです。すでに 2002 年に『鈴鹿市のあゆみ』を発刊し、市内の旧軍施設と戦争遺跡を詳しく紹介しています。同年には鈴鹿市考古博物館が「戦争遺跡を掘る」展を開催し、戦争遺跡をテーマにした特別展は全国でも先駆的でした。さらに 2003 年には、三畑町の陸軍コンクリート製掩体（えんたい）が国の登録文化財に指定されます。戦争遺跡としての文化財指定は三重県で初めてでした。

２．鈴鹿海軍航空隊の格納庫

コンリート製掩体も貴重ですが、もっと貴重なものもあります。それが鈴鹿海軍航空隊の格納庫です。巨大な格納庫が滑走路の前に完全な状態で３棟並んで残っています。よく似た格納庫は、木製のものが京都府京丹後市の峰山海軍航空基地跡に１棟残っていますが、倉庫として使われているのでかなり改修されています。

また、鹿児島航空基地にも１棟残っていたのですが、昨年秋に破壊されました。ですから、巨大な扉やレールなども当時のまま残る格納庫が３棟も並んでいるのは、私が調べた限りでは全国でも例がありません。

登録文化財に指定されたコンリート製掩体は全国に 100 基は残っていますが、格納庫は全国でも鈴鹿市だけです。私たちの財産として、貴重な文化財として大切にしていきたいと思います。

３．これからの課題

会としてこれから進めていきたいことが３つあります。

一つ目は戦争遺跡の保存と活用です。まずは市内にたくさんの戦争遺跡があること、それらが貴重な文化財であることを市民に知ってもらいたいです。そして文化財として調査し、大切に保存することを求めたいです。活用することも大切です。戦争遺跡を使ったまちおこしも全国でされています。また、数年前に宝塚市の小学校から修学旅行で鈴鹿市の戦争遺跡を見たいという依頼を受けましたが、あの巨大な格納庫を使って平和学習ができればすばらしいと思います。皆さんですばらしい活用の仕方を考えていきましょう。

二つ目は、ものを残すということです。当時の実物資料、書類や手紙、古写真、日記、市や学校の公文書などがたくさん残っていますが、意識的に保存しないとどんどん処分されていきます。会員の皆さんもお心当たりのものがあれば、ぜひご連絡下さい。

三つ目は体験談や個人史を活字や録画で残すということです。戦争中の体験を持つ方はどんどん少なくなっていますが、まだまだ聞き取り調査は間に合います。一人ひとりの貴重な　体験をたくさん後世に残していきましょう。

設立総会自由討論抄録

Ａ：現在の生川歯科のところで呉服屋を営んでいた。小学校１・２年生のころ、江島３丁目の白子コミュニティーセンターの南側付近に横須賀海軍建設部が事務所を設置したが、地元の業者が造成した。昭和１３年に鈴鹿海軍工廠が開設され、昭和１４年３月８日に飛行場の開設式典が行われた。武道場などの引幕（緞帳）の注文があり、菊のご紋章は京都で染めた。海軍航空隊は偵察訓練で、土浦予科練の１期生がこちらにやってきたが、参宮街道筋の大きな家で土・日曜に１５～２０名ほどで滞在した。当時のいろいろな資料を持っている。

Ｂ：父が電電公社に勤務していて、戦後は電気通信学園になった。現在は鈴鹿医療科学大学が活用中だが、「NTT 跡地転換利用計画」について学習する必要がある。映像資料も残しておくべきで、東南海地震などに危険であるなどで、格納庫が直ちに取り壊されれば元も子もない。

司会：NTT への要望書についての説明。現在のところ、NTT からの回答はない。

Ｃ：一度格納庫を見学したいが、どこへ言えば良いのか。本会の会費は 1,000 円だが、市に助成させられないのか。市会議員も出席しているので、市当局に働きかければどうか。

Ｄ：『鈴鹿市のあゆみ－軍都から平和都市へ』＊　を学習教材として使うよう市議会で提案した。毎年改定して増刷すべきで、刊行の当初に「九条の会」で要望した。格納庫は NTT の所有だが、市が買収し公開するのが大切で、市議会でも続けて訴えてゆくが、市民活動をさらに大きくして行ってもらいたい。　＊市制 60 周年記念　2002 年（平成 14 年）7 月　鈴鹿市発行 Ａ４版６２頁

Ｅ：２００４年に格納庫を映画「埋もれ木」の撮影セットとして活用した。約 2,000 人もの人が参加したが、そのころは３棟とも使用を許可された。格納庫をぜひとも平和利用してもらいたい。

司会：NTT 西日本（大阪）へ格納庫見学を要望したが、市民に公開していないとのことで拒否された。本会の設立総会についての記者会見の際に、格納庫の面積の教示を求められたので NTT 西日本に聞いてみたが教えてくれなかった。（大型の２棟は 3,200 ㎡。小型の１棟は 1,500 ㎡）。

岩脇：格納庫は現在企業が倉庫として利用中で、その企業も承諾しないと内部を見られない。

Ｆ：　広瀬町在住だが、近くの三畑町に掩体壕があることを知らなかった。会員として戦争遺跡の実態を見学したいし、文化財指定を要望したい。

Ｇ：　本会の設立関係者の「次代に戦争遺跡を残しておきたい」との強い思いに感動して入会した。以前子ども二人と考古博物館で戦争展示を見学した。浅尾先生にいろいろ教えてもらった。

Ｈ：四日市市河原田町の出身で、日永町には海軍の将校らが地下壕を掘っていた場所がある。老人会の役員時代に「戦争体験を語り継ぐ」催しを開いたときの二人の講師のうち海軍工廠に勤務された鈴鹿市牧田町の方には、特攻隊の出撃の様子や、戦争の悲惨さについて話しをしてもらった。牧田小学校では地元の方々の戦争体験を子どもに聞かせているそうで、本会でも小学校に働きかけて貰いたい。神戸町のジェフリーすずかなどを利用した講演会なども開催してほしい。もう一人の講師は、戦争当時の多数の資料を持っておられた。

Ｉ：格納庫の保存についての要望書は去年の８月に提出しているとのことだが、緊急に全国規模で署名運動するなどの取り組みが必要ではないか。まだまだ鈴鹿の戦争遺跡について知られていな

いのではないのか。

司会：NTT 研修地跡は、全体の半分が医療科学大学、残地の半分が防災用公園、残りの土地が NTT が利用計画（４ゾーンの開発計画）を策定して市へ提出し、現在 NTT は買い手を探している最中である。本会の設立を NTT に周知させることが重要で、市当局や関係団体にも併せて周知と保存と平和利用への呼びかけを進めていきたい。

Ｊ：展示資料は祖父の代のもの。落下傘の収納袋は、海軍用は緑色で、陸軍ではベージュ色。「鈴空祭」の写真は、初期の戦闘機が写って入るので昭和１３年から１５年ころだろう。撮影は、軍関係者です。

ｋ： 格納庫の借用先や市長にも働き掛けるべきで、ホンダの子会社が借用しているなら市長を通じて内部の見学できるように本会より働きかけよ。市議にも働き掛けて貰いたい。

Ｌ：行政に住民の声をもっと上げていかねばならない。少しでも早く皆で力を合わせて保存に協力し、平和利用できるように頑張っていきたい。

Ｍ：全国的な活動に拡大すべきではないのか。戦争遺跡関係の書籍にも鈴鹿のことはほとんど掲載されていない。努力すべきだ。

岩脇： ２００８年夏に名古屋市で開催された「第 12 回戦争遺跡保存全国シンポジウム」で本会の準備状況や要望書提出について報告した。その際に特別決議文書を文化庁、三重県、鈴鹿市、NTT に送付しているが、回答は皆無である。これについては、本会のホームページを参照されたい。

Ｎ：市が土地を買収しないと保存できないし、議会に議員連盟も必要だろう。市は医療科学大学誘致に３０億円を提供したが、戦争遺跡の買い取りのためにも基金の一部として１億円ぐらいを市に助成させる必要がある。また平和利用には経費がかかるので、全国的な募金活動を是非行うべきだし、本会でその基金を募る運動も必要ではないか。以前、格納庫を借りて鈴鹿建設労組の技能検定を行ったが、鉄骨はＨ鋼ではなく、揺れや衝撃に強く丈夫だ。

Ｊ：鈴鹿航空隊の第１、第２格納庫は解体され、他所に移築されているが、１棟は四日市の近鉄塩浜駅の車両基地に形を変えているし、他は京都府の舞鶴にある。

Ｏ：格納庫の参考価格を調べる必要もある。固定資産評価額は、市場価格の７０％ぐらいだ。１０数年以前に「月光の夏」の上映会を市内で行った際に、旧軍関係者にお世話になったＧが、その方々の証言などをきちんと残すべきだ。

Ｐ： 鹿児島県知覧町の出身だが、本会への入会はいつでもできるのか。友人にも伝えて入会を呼びかけたいが、誰に連絡すればよいのか。

司会：いつでも入会を受け付けるし、連絡は議長へお願いします。予定時間が来ましたので

① 本会発足について NTT、市、その他の団体へ周知連絡すること。
② 関係者への聞き取り調査を行うこと。
③ ６月６日（土）に市内の戦争遺跡見学会を開催すること。
④ ８月１５日前後、１２月１日（市制記念日）前後には、何かの行事を催したいこと。

以上を当面の活動としてお約束したいと思う。それでは長時間熱心にご意見を頂戴できましたことに感謝して、これで設立総会を終わります。有難うございました。

私家版戦史を編む木村三郎さん
特攻で戦死した同期を悼む

戦死者の慰霊になればと、「私家版太平洋戦争戦史・年表シリーズ」を編んでいる木村三郎さん（８７）＝津市渋見町在住＝が会員になって下さり、寄付までいただいた。

木村さんは農林省水産講習所（現東京海洋大学）在学中の１９４３年、学徒出陣により海軍に徴兵された。第１期飛行専修予備生徒となり、徳島航空隊で「飛行要務士」の教育を受けて少尉に任官。松山、続いて倉敷の航空隊に勤務した。同期のうち５７１人が鈴鹿航空隊で教育を受け、偵察要員となった。その多くが沖縄特攻で戦死した。

戦後、三重県庁に入って主に水産行政を担当。自分は搭乗員の適性試験で要務士に回されたが、適性と認定されておれば、亡くなった同期と同じ運命をたどったかもしれないと、県庁退職後しばらくしてから、私家版太平洋戦争戦史の編纂に取り組んだ。「ミッドウエー海戦以降は正確な史実を知らされてこなかったからその空白を埋めたかった。

また、同期の戦没者がどういう戦闘経過で死んでいったのか、確かめることで慰霊したかった」と木村さん。多くの戦史、戦記を渉猟し、ノートに書きとめ、それをワープロに清書して、製本した。すでに７巻を刊行。主として海軍の同期生、その遺族に配布している。

鈴鹿市寺家３丁目の西方寺に「海に出て木枯帰るところなし」という句碑がある。同市鼓ケ浦に住んだ山口誓子のこの句が木村さんには重く響く。「特攻隊員の痛ましい出撃を詠んだ句ですから」

（文責・竹内宏行）

戦争遺跡見学会のご案内

○日　　時　　２００９年６月６日（土）　１３時～１７時予定（小雨決行）
○集合場所　　１３時に「白子サンズ」北側駐車場（近鉄の線路に近い所）近鉄白子駅徒歩５分
○見 学 地　　今回は、海軍関係の戦争遺跡を見学します。
　・鈴鹿海軍航空隊の格納庫、正門、番兵塔、西玉垣の大松など
　・鈴鹿海軍工廠（こうしょう）の正門銘板、工場跡と火薬庫、試射場跡など
○そ の 他　・見学地は天候その他の事情で、変更する場合があります。
　・当日は、自家用車乗り合わせでの移動になります。ご了承下さい。
　・同封致しました葉書で、参加の有無をお知らせ下さい。
　・参加申込みの締切は、５月１７日（日）とさせて頂きます。

鈴鹿海軍工廠射撃場

鈴鹿海軍工廠火管圧填工場跡

鈴鹿海軍航空隊正門跡

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
代　表　　竹内宏行
〒 510-0254　鈴鹿市寺家１－２－４７
電　話　　０５９－３８８－６５０８
メール　　ta818hi@mecha.ne.jp
ＨＰ　http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm